

2022 年度第 1 四半期 決算説明会 主な質疑応答
(2022 年 8 月 5 日開催)

<電子・先端プロダクツ>

Q1：上期営業利益予想を下方修正（110 億円→100 億円）しているが、それでも 2Q 予想は 1Q に比べ約 18 億円改善する見通しとなっている。その内容を足元の状況を踏まえ教えてほしい。

A1：1Q は上海ロックダウン、半導体不足などによる自動車減産が大きなマイナス要因であった。7 月以降、半導体不足は緩和の方向であり、自動車生産は回復傾向になると考える。自動車減産の状況下でも需要拡大のトレンドである EV についても、客先での部品調達の影響などにより 1Q はマイナス影響を受けたが、7 月以降の回復を見込んでいる。

Q2：セラミック基板の競合が設備の能力増強を行っているが、影響はあるか。

A2：販売向け先国の違いにより、あまり影響しない。当社の販売は、日本やヨーロッパのユーザーが多い。

Q3：アセチレンブラックについて、他素材との競合動向に変化はあるか。

A3：カーボンナノチューブとは競合関係はあるが、シェアに大きな変動はない。LiB 向け正極材の導電助剤需要は市場が拡大しており、シェアを取り合うような状況ではない。

<ライフイノベーション>

Q4：新型コロナウイルス抗原迅速診断キットは感染拡大の影響で 1Q の販売数量が大きく伸びたのか。

A4：1Q は第 6 波の流行が収まっており、それほど大きな流行はなかった。7 月以降、感染が急拡大（第 7 波）し、需要が強くなっている。

Q5：新型コロナウイルス抗原迅速診断キットについて、下期はどのような流行を想定し、どのような売上を想定しているのか。

A5：下期は第 7 波のような感染拡大は想定しておらず、ある程度鎮静化する前提としている。一方で、南半球を中心にインフルエンザの流行が見られており、インフルエンザと新型コロナウイルスを同時に検査できるコンボキットが下支えすると考えている。以上のことから、下期の売上高は上期を若干下回る程度を見込んでいる。

<エラストマー・インフラソリューション>

Q6：クロロプレンゴムの 1Q の販売状況と、2Q の想定について教えてほしい。

A6：1Q の需要は堅調であり、値上げは当初の計画よりも積極的に実施出来ている。2Q の販売数量は 1Q とそれほど変わらない想定ではあるが、値上げの進捗は進み、スプレッドがより改善する見通しである。

Q7：石炭価格が上昇しており、他社ではセメント価格のサーチャージ制を導入しようとしているが、御社は収支改善に向け、どのように取り組むか？

A7：当社はサーチャージ制の導入ではなく、昨年 11 月に発表した 2,300 円/t の値上げに続き、8 月 4 日に 3,000 円/t の追加値上げをリリースした。

<ポリマーソリューション>

Q8：MS樹脂の1Qの販売動向と、2Q以降の想定について教えてほしい。

A8：MS樹脂の主な用途であるTVやモニターの導光板用途は、1Qでは想定よりも需要が落ち込んでいる。
2Q以降も回復は鈍く、期初想定より需要が落ち込んだ状況が続くと見込んでいる。

<その他>

Q9：ポートフォリオ変革の取り組みにアップデートがあれば教えてほしい。

A9：構造改革は順調に進捗している。今年の年末まで、遅くとも今年度3Q決算発表までには何らかの進捗を報告できるような進捗状況である。

以上